

子ども安全 ・安心通信



(事務局)

宮前区役所こども支援室

電話 856-3118

FAX856-3171

土橋小学校に青色回転灯が設置されました

川崎市では、土橋小学校を市内第1号の「地域防犯活動拠点」として位置づけ、出入り口付近に防犯拠点であることを示す青色回転灯を設置し、平成21年7月7日(火)に開所式を行いました。

土橋小学校では、PTA・校外委員、地元町会を中心に地域で連携し、児童の安全のための活動を進めてきたことから、全市展開を図るためのモデルとなりました。



小学校に設置された青色防犯灯

地域防犯活動拠点とは？

地域に根ざした防犯活動等を行っている団体の活動をより活性化させ、住民と一緒に安全・安心なまちづくりを推進していくためには、防犯活動を行うための拠点となる施設があると効果的です。しかし、専用の建物を活用している拠点は、川崎市には設置されておらず、早急な設置が望まれていました。そのため、川崎市では、地域の防犯活動を推進するために、小・中学校区単位を中心とした地域防犯活動の拠点整備に向けて取り組んでおり、このたび、土橋小学校を市内で初めての「地域防犯活動拠点」として位置づけました。

具体的な活動としては、主に登下校時に青色回転灯を点灯させ、防犯活動を実施していることをアピールし、また、安全・安心まちづくり対策員が、子どもの下校時を中心に学校に立ち寄り、青色回転灯を付けた市の防犯パトロールカーによる防犯パトロールを実施します。

また、この地域防犯拠点を、町内会、パトロール隊、老人クラブ等のボランティア団体が、子どもの見守り活動や防犯パトロールをする際の集合場所や、防犯、交通安全、防災など、地域安全にかかわる情報交換の場などとして活用してもらうこととなっています。

青色防犯灯とは？

警察や消防など警戒力を示す赤色回転灯に対し、近年「防犯の色」として青色が定着しつつあります。市内でも、区役所や町内会で青色回転灯を付けた車で防犯パトロールを行っています。



防犯パトロールカーに手を振る子どもたち

地域安全マップって何？

今号では、子ども安全・安心協議会が推進している、「地域安全マップ」づくりについて簡単に説明します。平成21年7月に、宮崎小学校の4年生がチャレンジスクールの時間を使って「地域安全マップ」づくりを行いましたので、その流れに沿って「地域安全マップ」の紹介をします。

「地域安全マップ」とは、どんな場所で犯罪が起こりやすいかを地図にしたものです。

犯罪が起こりやすい、つまり、犯罪者が犯罪を起こしやすい場所とは「犯罪者が入りやすい（怪しまれず近づくことができ、犯行後、すぐに逃げやすい）場所」と「見えにくい（隠れやすく、犯行が見つかりにくい）場所」です。そのような場所を子どもたちが、自分たちで発見・確認し、地図に書き込んだものが「地域安全マップ」です。マップづくりを通じて、子どもたちは、自ら危険を回避する能力を身につけ、地域との関わりをもつことができます。では、「地域安全マップ」づくりの流れをみていきましょう。

1 事前学習

人は見た目では犯罪者かどうかわかりません。そのため、人ではなく場所に注目し、指導者が、子どもたちに「犯罪が起こりやすい場所」はどんな条件の場所かを理解させます。

いろいろな場所を見せて、なぜ犯罪が起こりやすい場所なのか、なぜ安全な場所なのかを考えさせます。



「入りにくい・見えやすい」

- ・こども110番の看板が多く、地域住民が安全に関心がある。
- ・柵があって区切られており、関係ない人は入りにくい。
- ・通学時に近所の人が見守っている。
- ・家の窓から、道路が見えやすくなっている。
- ・公園がきれいに保たれていて、周りからも中の様子が見えやすい。

安全な場所



「入りやすい・見えにくい」

- ・公園が樹木に囲まれていたり、周りより高い場所にあり、通行人から見えない。
- ・まちの清掃に住民の意識が低い。
- ・住民の関心がなく、自転車や落書きが放置されている。
- ・道路の両側が高い生垣やブロック塀に囲まれて見えにくい。

危険な場所

2 フィールドワーク

犯罪が起こりやすい条件の場所を発見するために、地域を歩きます。フィールドワークでは、子どもたちがキーワードを手掛かりに、自分で気づくことが大切です。大人が「ここは危険だよ。」と教えるのでは、被害防止能力は育ちません。「もし、暗くなったらどうだろう」など、いろいろな視点で見ることも大切です。



フィールドワークでは、班のみんなて考えながら歩きます。インタビューをすることも大切です。



「入りやすい・見えにくい」場所があれば実際にロールプレイします。高い塀の後ろや家と家の間など、実際に子どもたちを入れてみると、その場所で何があっても外からは見えにくいことが実体験として理解できます。一見安全そうな場所であっても、「かわいい子猫ちゃんがいるよ～」などの言葉に、つい入り込んでしまい、気が付けば危険な場所に誘い込まれてしまう場合もあります。

↑ 駐車場に入ると、子どもの背丈では外から見えなくなります

3 地図の作成

フィールドワークで気が付いた、「犯罪はどんな場所で起こりやすいか」「どんな場所が安全か」のコメントを地図に書き込んでいきます。地域の人へのインタビュー内容も添え、キーワードを自分のものにしていきます。地図を作るプロセスにより危機管理能力を高めることを目的としています。



子どもたちが作る事が大切です



コメントづくりが重要です!

4 発表

自分たちで作った地域安全マップを、みんなの前で発表します。

子どもたちが、気が付いた事、犯罪が起こりやすい場所、安全な場所などをみんなに教えることによって、よりいっそう自ら危険を回避する能力が身につきます。

発表のあと、全体講評を行って、地域安全マップづくりは終了です。



みんなの前で全員が発表します

宮崎小学校では、2日に分けてマップづくりを行いました。7月22日は、ちょうどフィールドワークの時に部分日食が起こり、思い出に残るマップづくりになりました。

今回、宮崎小学校の参加した子どもたちの中には、「地域安全マップ」のことをすでに知っている子もいました。

・参加した児童へのインタビュー「こども新聞に載っていた地域安全マップの記事を何度か読んでいたのでやってみたくて思っていました。今回、地域安全マップづくりに参加できて良かったです。また今度、他の地域でもやってみたくてです。」

宮前区こども安全・安心協議会では、学校や PTA における「地域安全マップ」づくりを支援しています。また、「地域安全マップ」づくりは区内地域教育会議や NPO 法人防犯ネットワークの協力で実施しています。地域のボランティアとして地域安全マップを子どもたちと一緒にやってみたくての方は、ぜひ、事務局（宮前区役所こども支援室）までお知らせください。

宮前区子ども安全・安心協議会 総会

平成21年7月11日(火)
場所:宮前区役所大会議室

宮前区子ども安全・安心協議会では、地域全体で子どもの安全を確保し、安心してらせるまちづくりを目指して、それぞれの団体が子どもの安全を守るための活動をしています。

平成21年7月11日に開催された総会では、平成20年度活動報告のほか、宮前警察署生活安全課長による不審者情報の提供や、スクールサポーターによる仕事の紹介などが行われました。


平成21年度活動計画として、子ども安全・安心協議会総会、連絡会議、企画委員会の開催、「地域安全マップ」づくりへの取組、子ども安全・安心通信の発行、講演会の開催について承認を得ました。

生活安全課長の話では、現在、全国警察をあげて、犯罪被害に遭う前に女性と子供を守るための警察官を増員しており、神奈川県警も女性子供対策班に40人強の警察官を増員し、犯罪防止に努めているとのことでした。

宮前署管内でも、痴漢や露出といった事案が発生しており、夏休みに入ると、子どもたちが外に出る機会も多くなり、季節的に、不審者が多く現れるので、気をつけるよう話がありました。そして、県警では「ビーガルくん子ども安全メール」の配信により、事件が発生すると、すぐに事件の配信をするので、子どもたちを犯罪から守る活動に役立てて欲しいという話がありました。

情報交換の時には、そのビーガルくん子ども安全メールについての話がありました。子ども安全メールは、実際には、事件が起こってから2日～3日経ってから配信されることが多いので、情報を役立てるため、事件のあったその日のうちに情報を伝えていただきたいという要望がありました。

また、地域で凶悪犯罪が発生し犯人が逃走した際に、各小学校にはその日のうちに連絡が入り、保護者にも連絡が入ったが、同じく、子どもを預かっている施設の中には、翌日になっても連絡が入らなかった施設もあり、そのような施設への情報連絡経路の確立と、情報の一本化をお願いしたいという意見がありました。

 こども支援室では、各小学校区ごとの安全・安心に関する取組みの紹介をしています、紹介したい地域での取組がありましたら、ぜひご連絡ください。